

「デジタルネイティブ」とは何か

佐々木 隆

プロローグ

最近、SNSの利用上のマナーが問題視される報道等が目立つようになった。アルバイト従業員が芸能人が来店したおり、ツイッターへ書き込み顧客のプライバシーを公開してまったり、不適切な写真の投稿から民事や刑事事件にまで発展していることは周知の通りである。こうした状況はおもに「デジタルネイティブ」と呼ばれる世代を中心に起きているようである。ここでは「デジタルネイティブ」に関して考察を加えたい。

一 デジタル時代・デジタル社会とは何か

現代を表す言葉として「情報社会」「情報文化社会」「インターネット」「IT」「ICT」という言葉はもはや現代に欠かせないものになった。さらに、「デ

ジタル」という言葉は今や何の抵抗もなく使用され

ている。「デジタル」という言葉が一般的に普及した

背景にはデジタル・カメラの普及があったと推測され

れる。デジタル・カメラの誕生は一九七五年にイー

ストマン・コダックによって発明された。しかし、

フィルム・カメラに拘ったコダック社も二〇一二年

には経営破綻した。一九九四年発表・一九九五年三

月に発売されたカシオのデジタルカメラ「QV・10」

(二十五万画素)は、デジタルカメラの存在を広く

一般に認知させたと言われている。その理由は利便

性は外部記録装置なしで九六枚撮影ができ、価格も

六万五千円と低価格へ移行していった。一九九五年

はWINDOWS 95の発売もあり、デジタルカメラ

はPC、インターネットの普及もあり以後、データ

として汎用性が拡大していった。二〇〇五年にはフ

ィルム・カメラとデジタル・カメラの売り上げが逆

転した。ちなみに「デジカメ」は特許庁に登録され

ている、三洋電機の登録商標であった。

二 「デジタルネイティブ」とは何か

「デジタルネイティブ」という言葉はマーク・プ

レンスキー (Marc Prensky, 1946-) が *On the*

Horizon (2001) に掲載した "Digital Natives, Digital

Immigrants" (二) で脚光を浴びたと言われている。

What should we call these "new" students of today? Some refer to them as the N- [for digital] - gen. But the most useful designation I have found for them is Digital Natives. Our students today are all "native speakers" of the digital language of computers, video games and the Internet.

訳 今日のことした「新しい」学生たちを何と呼ぶべきか。彼らをN世代と呼ぶ人達もいる。しか

し、彼らにために私が見つけた最も有用な呼び名は「デジタルネイティブ」だ。今日の学生達すべてがコンピュータ、テレビゲーム、インターネットのデジタル言語のネイティブスピーカーなのだ。

そして続けて次のような記述がある(ことにも注目しておきたい。

So what does that make the rest of us? Those of us who were not born into the digital world but have, at some later point in our lives, become fascinated by and adopted many of most aspects of the new technology are, and always will be compared to them, Digital immigrants.

訳 それでその他の我々を何と呼べばよいかどうか。デジタル世界に生まれて来なかったが、人生においてある後半の時点で新しい技術の大部分に

魅せられ、それらの多くを採用するようになり、いつも彼らと比較されるようになるだろう人々はデジタルイミгранトである。

三、デジタル世代

デジタルネイティヴを論じる上で重要なこととして「デジタル時代」とそこで育った親、そしてその子どもという構図が挙げられる。

タスプロコット(二〇〇九)によればアメリカをネットの世代論を論じるために4つの世代に分けた。

(1)

ベビーブーム世代	一九四六年～一九六四年
ジエネレーションX	一九六五年～一九七六年
ネット世代(Y)	一九七七年～一九九七年
次世代(Z)	一九九八年～二〇〇八年

ベビーブーム世代はテレビ世代、ジェネレーション Xはメディア指向の世代となる。つまり、PCやインターネットが普及する以前に誕生し、成長と共に科学の発達によりTV、PC、ビデオゲーム、インターネットに触れた世代であり、世代のこともはネット世代、次世代ということになる。

四．デジタルネイティブ世代とは

TVのなかった世代にとってTVの登場と共に、TVで育った世代はまさに新時代の到来であっただろう。メディア時代の幕開けとも言えるだろう。同じことはインターネットの登場によって起こっている。しかし、インターネットはさらに世界中への送受信が可能となっていることがこれまでのメディア時代とは全く異なった事態を生じさせた。日本の状況に当てはめて考えるとポイントになるのは次の通りとなろう。

一九五三年	TV放送開始
一九八三年	ファミコンの発売開始
一九九三年	インターネット商用化
一九九五年	デジタルカメラの低価格化実現
一九九五年	WINDOWS 95
一九九五年	PHS
一九九九年	iモード
二〇〇〇年	内蔵型カメラ付き携帯電話
二〇〇六年	TWITTER
二〇〇七年	iPhone
二〇〇七年	FACEBOOK、本格参入

デジタルネイティブにとって重要なファクターはインターネット、スマートフォン（携帯電話）、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）ではないかと思える。従って日本では一九九三年以降に生ま

れた世代がネット世代、iモードに代表されるように携帯電話がネットとつながり現在のSNSの基盤ができた時代に生まれた世代を次世代と呼ぶことができるかもしれない。ネット世代にしろ、次世代にしろ、その親はこどもの頃にはインターネット、P C、携帯電話などなく、おとなになってから仕事等が必要に迫られてこれらに触れるようになった世代であると言つてよいだろう。こうした親の世代はファミコンやデジカメを利用し、その利便性を最も痛感している世代とも言えるだろう。プレンスキーはこうした世代をデジタルイミグラントと命名している。

日本でデジタルネイティブを論じようとするれば、その基点となるのは一九九三年のインターネット商用化以降に生まれた世代とするのが最もふさわしいだろう。この世代は現在二十一歳である。

五. デジタルネイティブの幻想

デジタルネイティブはデジタル時代に生まれ、デジタル機器、インターネットを使いこなす世代だと思われている。確かに否定はできないが、昨今のSNS利用上のトラブルを引き起こしているのも多くがその世代である。インターネットの時代、デジタル社会に生まれたからと言つて、すべての若者がデジタルツールを使いこなしているわけではない。アメリカに留学したすべての人が英会話が格段にうまくなつて帰国する人ばかりではないのと同じだ。こうした幻想はいつの時代でも起きることだ。しかし、SNS利用上の未熟さは単に英語が話せないのと違い、かなり深刻な事態を引き越している。不適切な書き込みや写真の投稿は最悪の場合には犯罪となるからだ。定義などはまだできない状態だが、デジタル社会でデジタルツールを使いこなす「デジタル成熟度」というものはつきりと身につけていないこ

とから生じているのではないかと推測している。つまり、デジタル機器を使いこなす能力、インターネット上のモラル、そして対人コミュニケーションとモバイルコミュニケーションとのバランスが取れていないことから生じるものと考えられる。

エピローグ

デジタルネイティブは簡単に定義してしまえば「デジタル時代に生まれ、デジタル機器、インターネットを使いこなす世代」ということになる。日本では一九九三年以降に生まれた世代とすると説明はつくだろう。しかし、この世代は「デジタル時代に生まれた」というところは世代的に全員に当てはまるが、「デジタル機器 インターネットを使いこなす世代」というところが実は大きな問題を抱えていることになる。英語教育においても実用英語導入の背景には経済界からの強い要望があったことはよく

知られているが、これと同じことがIT革命でも起こり、さらにICTの推進につながっていると考えた方がわかりやすいかもしれない。今注目すべきは、デジタル時代に生まれながら、デジタル機器、インターネットを適切に使いこなせない人達ではないだろうか。高等学校で情報科の授業が必修化され、ゲームの達人とも呼ばれるような人でも実は情報リテラシーが身についていない、DSやスマホは驚異的なスピードで操作できるにもかかわらず、メールの添付ファイルができないといったこのアンバランスをどう考えていけばよいか。こうした取り残された状態のデジタルネイティブこそ、デジタルイミグレーション以上に厳しい状態におかれているのではないかと思える。③

(一) Marc Prensky, "Digital Natives, Digital Immigrants" はインターネットの公開のものから利

用した。

(<http://www.marcprensky.com/writing/prensky%20-%20digital%20natives,%20digital%20immigrants%20-part1.pdf#search=digital+natives%20+digital+immigrants>) (二〇一四年四月二十九日アクセス)

* Marc Prensky. "Digital Natives, Digital Immigrants" の翻訳は佐々木の試訳を掲載した。拙著『日本の中の異文化』とは何かーデジタルネイティブの時代』(『日本の中の異文化』第十号、日本異文化研究会、二〇一三年十一月) の試訳を行ったものを今回も使用した。

(1) Don Tapscott. *grown up digital*. (New York: McGraw-Hill, 2009), pp.15-16.

(三) デジタル時代に生まれたデジタルネイティブだが、デジタル機器、インターネットを適切に使いこなせない人達の引き起こす諸問題、あるいはその

状態を「デジタルネイティブのキャストアウェイ現象」(佐々木隆・上松恵理子・八木浩雄 二〇一三)と名付けた。